

## 第31回全国大会 文京学院大学にて開催



会場校挨拶：島田昌和氏（文京学園副理事長・文京学院大学経営学部教授）

### 第31回全国大会 プログラム

日時：2012年12月15日（土）10:00 - 18:00

場所：文京学院大学・本郷キャンパス

#### プログラム

大会総合司会：大島希巳江（文京学院大学）

10:00 - 10:15 開会式

開会の辞：Leah GILNER

（文京学院大学・大会実行委員長）

会場校挨拶：島田昌和（文京学園副理事長・  
文京学院大学経営学部教授）

会長挨拶：日野信行（大阪大学）

10:15 - 11:45 基調講演：

The Properties and Parameters of  
Native-Speakerism in Japan (in English)  
Dr. Damian J. RIVERS (Osaka University)

11:45 - 12:05 会員総会

12:05 - 13:30 昼食休憩

13:30 - 15:10 研究発表

司会：田中富士美（芝浦工業大学）

1. 日本人大学生のアジアの大学生に対する異文化理解 (in Japanese)

—英語を媒介とした異文化交流クラスにおける学習効果測定を目指して

大和田和治（東京音楽大学）、上田倫史（駒澤大学）、吉田諭史（早稲田大学）

2. Exploration of learner-friendly English for shadowing training (in English)

HAMADA Yo (Akita University)

3. アジアの初等英語教育と言語政策 —日本・韓国・インドの英語テキストに焦点をあてて (in Japanese)

岩田恭子（中京大学・国際英語学研究所）

15:10 - 15:25 休憩

15:25 - 17:45 シンポジウム

「日本企業のグローバル人材育成と大学英語教育」 (in English and Japanese)

司会：リーア・ギルナー（文京学院大学）

「企業ニーズと国際言語としての英語：大学英語教育の使命」吉川寛（中京大学）

「大学におけるグローバル人材育成のための取り組み事例」西村信勝（文京学院大学）

「企業コミュニケーションとユーモア：大学と企業の対応」大島希巳江（文京学院大学）

「企業のグローバル人材開発の現状：国際コミュニケーションマネジメントのすすめ」

間瀬幸夫（東京外国語センター）

17:45 - 17:55 閉会の辞：吉川 寛（中京大学）



会長挨拶：日野信行氏（大阪大学）

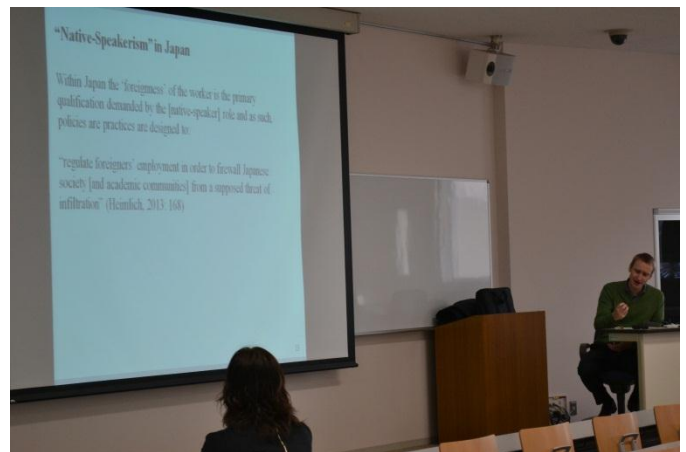
## 第 31 回全国大会概要

藤原康弘（愛知教育大学）

日本「アジア英語」学会 2012 年度冬季全国大会、第 31 回大会は 2012 年 12 月 15 日、文京学院大学（於東京）で開催された。まず開会式では会場校の副理事長である島田昌和氏、及び学会会長の日野信行氏からそれぞれご挨拶をいただいた。日野会長のご挨拶にもあったように、文京学院大学は、本学会の活動を考える上で大変示唆的な書、『日本人英語の科学』（1982）の執筆者である竹蓋幸生先生が教鞭をとられた学術機関の一つである。その場で基調講演 1 件、研究発表 3 件、シンポジウム 1 件が実施された。以下に紙面の都合上、簡略的ではあるが、概括させていただきたい。

まず午前中に Damian J. Rivers 氏（大阪大学）により、"The properties and parameters of native-speakerism in Japan"と題して、基調講演がなされた。氏は 2013 年 1 月に *Multilingual Matters* より発刊予定の *Native speakerism in Japan: Intergroup dynamics in foreign language education*"の共編著者の一人であり、その最新の研究成果を分かりやすいスライド、及び具体

的な社会的事例等を用いて発表がなされた。Holliday（2005）により提唱された *native speakerism* に関連する議論は、時に英語「母語話者」を加害者、「非母語話者」を被害者とシンプルに捉えがちであるが、実際にはいずれも加害者、被害者になり得る思考様式であるとの指摘がなされた。当該指摘は短絡的に物事・人々を二分し、相互を相違化、時に敵対視させてしまう傾向のある二分法の枠組みを超え、両立場を踏まえた新しい協調的地平に向かうべきステップストーンとして大変興味深い。上記の著書の発刊が待ち遠しい。



基調講演：Dr. Damian J. Rivers (Osaka University)

午後の研究発表は 3 件あり、田中富士美氏（芝浦工業大学）の司会により進められた。1 件目の発表では、大和田和治氏（東京音楽大学）、上田倫史氏（駒澤大学）、吉田諭史氏（早稲田大学）により、日本、中国、韓国、台湾のアジア圏の大学生間でインターネットと英語を媒介とした異文化交流クラスの実践、及びその受講者である日本人大学生の異文化理解、またアジア英語、日本英語の理解についての質問紙調査の結果が提示された。まさに「アジア英語」学会の名に相応しい教育実践と研究調査といえ、今後の展開、また当実践の他大学への広がりが期待される。

2 件目の発表は、濱田陽氏（秋田大学）により、英

語で行われた。氏の研究目的は、shadowing で与える model inputとして、英国、インド、韓国訛りの英語変種を用意し、実際に活動を行わせた後に、どの input を日本人大学生は最も"shadower-friendly" (familiar かつ cognitive load が低い)とするか、を量的、質的に分析することであった。その結果、学習者の認識上、必ずしも「母語話者」のインプットではなく、寧ろ他のアジア英語変種が friendly である可能性を示す結果が提示された。当結果は、英語教育現場の音声インプットの大半が「母語話者」英語、とりわけ米語で独占されており、現実的に彼等が今後触れる可能性の高いアジア系英語話者のインプットを与えていない現状に一石を投じるものと思われる。

最後の発表として、岩田恭子氏(中京大学大学院修士課程)は、近年着目を集める日本の小学校の英語活動(厳密には「小学校外国語活動」)の有様を、同年齢対象の韓国、インドの英語教科書を中心とし、他にカリキュラム、指導法、社会情勢等を踏まえて、多角的に検討する内容であった。当検討の結果、日本の小学校の英語指導は、「英語が使える日本人」を目標とするのであれば、中学と連携したより充実した内容をカバーすべきであるとの指摘がなされた。次の学習指導要領の改訂において、小学校外国語活動の有様におそらく変化がなされると予測されるため、様々な議論が必要なことは言うまでもない。日本の児童、保護者、小学校教員、教員養成課程、社会一般の方々の認識、児童英語教育の研究成果のメタ的検証、行政上の問題など、全てを加味して、広く議論がなされていくことが必要であると感じた。

## シンポジウム概要

濱田 陽(秋田大学)



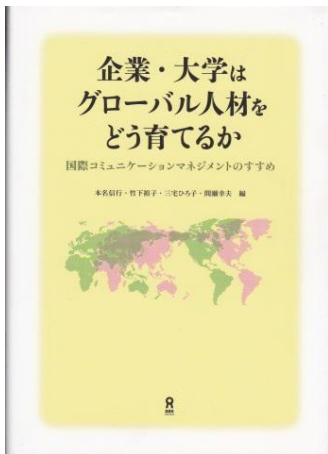
シンポジウム：左から  
間瀬幸夫氏(東京外国語センター) 大島希巳江氏(文京学院大学)  
西村信勝氏(文京学院大学) 吉川 寛氏(中京大学)

「日本企業のグローバル人材育成と大学英語教育」について、Moderator Chair である Leah Gilner 氏のオープニングレクチャーから始まり、吉川寛氏(中京大学)が「政府のグローバル人材育成の提言」と「大学英語教育の使命」について、勤務先である中京大学・国際英語学部・国際英語学科の教育を例にあげ、ご講演なされた。「高度な英語コミュニケーション力・異文化自文化の理解・ビジネスの実態の把握・社会人基礎力の習得・国際教養の習得」の5観点から構成される理想的な教育方針であった。続いて西村信勝氏(文京学院大学)が、「大学におけるグローバル人材育成のための取組事例」について、企業との連携を重視することで教育の質を高めるといふ、参加型の授業を重視する勤務校のカリキュラムの例をご講演された。続いて、大島希巳江氏(文京学院大学)による「企業コミュニケーションとユーモア：大学と企業の対応」に関する英語によるご講演が行われた。「ユーモアを言うという事は何かを売る事である」といようなセンテンスを用いたり、「トロとガリ」の関係例をあげられたり、ときに自らもユーモアを盛り込んだ、ユーモラスなご講演であった。最後に間瀬幸夫氏(東京外国語センター)が「企業のグローバル人材開発の現状：国際コミュニケーションマネジメントのすす



め」に関して、導入を英語で、その後日本語で、大学教育とはやや異なった視点からご講演された。その後4人の先生方と参加者の意見討論が行われた。

## 新刊書籍紹介



『企業・大学はグローバル人材をどう育てるか』  
本名信行・竹下裕子・三宅ひろ子・間瀬幸夫編  
(アスク出版) 2,400円(税別) 2012年12月  
ISBN978-4-87217-842-5

## 会長より

12月15日の会員総会でも御報告いたしましたように、田嶋宏子先生が事務局長及び理事を辞任されたことに伴い、理事の榎木蘭鉄也先生(中京大学)に事務局長をお願いし、御就任いただきました。また、理事選挙で次点であった津田早苗先生(東海学園大学)に、理事への御就任をお願いし、紀要編集を御担当いただいております。

## 事務局より

第32回全国大会研究発表者募集

第32回全国大会(2013年6月22日[土]大阪大学豊中キャンパス)で研究発表を希望される会員は、アブストラクトを

A4 Word 文書1枚にまとめ、4月30日(火)までに事務局に電子メールの添付にてお送りください[jafae@live.jp]。審査を経て発表者を決定いたします。

CALL FOR PAPERS for the 32nd National Conference on June 22nd, 2013 at Osaka University (Toyonaka Campus). Please submit a 1-page abstract as MS Word attachment by April 30th, 2013, to the JAF AE Secretariat at [jafae@live.jp]. All submissions will be carefully reviewed.

## ニュースレター編集担当より

ニュースレターは会員の大切なコミュニケーションの場ですので、会員の皆様からのご投稿を歓迎しております。国内外の紀行文、書籍紹介、海外情報など、「アジア」「英語」「言語」周辺をキーワードに、日本語 800~1,200字程度、あるいは英語ではA4用紙2/3~1ページ程度の分量でおまとめいただければ幸いです。編集の都合上、投稿を希望される方はあらかじめ、編集担当の田中(fujimisakaitanaka@live.jp)までご連絡下さるようお願い申し上げます。

2013年3月31日発行

編集・発行 日本「アジア英語」学会

代表者 日野信行

編集長 田中富士美

事務局 〒466-0825

名古屋市昭和区八事本町101-2

中京大学国際英語学部 榎木蘭鉄也研究室内

E-mail: jafae@live.jp

学会ホームページ: <http://www.jafae.org/>

年会費振込先: 郵便振替 00280-8-3239

<< JAF AE Secretariat >>

Professor Tetsuya Enokizono

Department of World Englishes, Chukyo University

101-2 Yagoto Honmachi, Showa-ku,

Nagoya, 466-0825 JAPAN

E-mail: jafae@live.jp

JAF AE's homepage

<http://www.jafae.org/>

JAF AE's postal transfer account number

00280-8-3239